

金沢（私のルーツ）のこと

竹屋 仁（技術士 金属）

金沢は加賀百万石の城下町であり、今はその伝統を生かし京都、奈良と並び称される古都である。本年3月には、新幹線が開通し大いに盛り上がっていた。

金沢は私のルーツである。その証拠に今も本籍は金沢にある。京都で育ち、その後神戸に住んで50年近くになる。その間、戸籍謄本をとる場合は金沢市役所から取り寄せていた。亡き父がそうしていたから、そのまま私も本籍を金沢に置いたままにしていた。私は覚えていないが、幼いころ金沢へ帰った時迷子になったという話を聞いた。物心がついてからは、夭逝した妹や祖母の納骨などに出向いた。父は、法事などはきちんとやる人で、家族そろって法事へ行き、マイクロバスで観光した記憶がある。私の子供たちも賑やかに参加したものである。

お寺は廣誓寺（曹洞宗）で、累代墓がある。金沢駅から徒歩10分、浅野川にかかる昌永橋を渡るとすぐである。ホームページによると1598（慶長2）年金沢市の砂丘地帯・五郎島地区に、不破家が真言宗安養山廣誓寺を建立。不破家の菩提寺となる。1650（慶安3）年廣誓寺が現在地に移転。境内2000余坪（現在は1000坪）に、七堂伽藍を完備した寺院を建立。曹洞宗本源山廣誓寺とした。

竹屋という苗字は屋号で、昔は商人であったようだ。竹屋家は代々仁兵衛を名乗ったので、父は安易にその一字をとったらしい。

弟は、一浪して金沢大学へ入学したが、初めの入学試験に付き添っていき、試験後の金沢の街を言葉少なに歩いた。伯母が富山に住んでいて、会いに来てくれて、「あっくりしたね」と弟に言ったのが、「がっくりしたね」に聞こえて驚いた。「ほっとした」の意であった。弟は下宿していたが、一度泊まりに行ったことがある。麻雀で軍資金をつくり、香林坊の蛇の目寿司でご馳走した。高価なものを注文するので困った思い出がある。若いころから貧乏性だったようだ。

最近、金沢を訪れることが多い。父の四十九日、一周忌、三回忌、母の四十九日は廣誓寺で執り行い、来年は母の三回忌がある。今年、父の七回忌と母の一周忌を合わせて、5月24日に執り行った。御膳は料亭「つる幸」を予約し、用意万端整えたつもりで、いざ23日の宿泊を予約しようとする、まったく泊るところがない。新幹線の開通により、金沢が混んでいるとは知っていたが、これほどとは思わなかった。金沢の町から拒絶されているようなさびしい気持ちになったが、めげずにいろいろ当たった結果、どうにか山中温泉にホテルを確保することができた。山中温泉に泊まった朝、少々時間があつたので、あやとり橋（あやとりはし）を渡った。

ウィキペディアによると「あやとり橋（あやとりはし）は、石川県加賀市山中温泉の大聖寺川にかかる長さ94.7m、橋床幅1.5mの橋である。あやとり橋と記載されることが多いが、正式名称はあやとりはしである。

構造：鋼鉄製単純曲線三絃トラス、逆三角形でその下部に木の橋床と金属の手摺を設けた構造。概要：いけばな草月流三代目家元・勅使河原宏のデザインによるワインレッド色のペンキ色に塗られた湾曲した徒歩専用の橋であり上空から見るとユニークな形状（S字型）をした鉄骨の橋。橋のデザインのコンセプトは「鶴仙溪を活ける」と言われる。

金沢は遠かったが、そのおかげでユニークな橋にめぐり遭えた。回り道も一興なりと思う。これから先、何回金沢を訪れるのだろうか。そのときは宿の確保が最優先である。以上



廣誓寺山門



あやとり橋